

那珂 78

—那珂遺跡群第 167 次調査の報告—

2018

福岡市教育委員会

那珂 78

—那珂遺跡群第 167 次調査の報告—



調査略号 NAK-167
調査番号 1629

2018

福岡市教育委員会

序

古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、数多くの文化財が残されています。の中でも福岡平野は福岡の歴史を考える上で重要な遺跡が数多く残されています。これらの文化財を保護し、後世に伝えることは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化により、その一部が失われつつあるのも事実です。福岡市ではそのような開発によってやむを得ず失われていく遺跡について事前に発掘調査を行い記録保存に努めています。

本書は、共同住宅建設に伴う那珂遺跡群第167次発掘調査について報告するものです。この調査では、弥生時代から中世にかけての集落を確認することができました。これらは福岡平野の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。

今後、本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後に事業主様をはじめとする多くの関係者の方々には、発掘調査から報告書刊行に至るまで、ご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

平成30年3月26日

福岡市教育委員会
教育長 星子明夫

例言

- 本書は、福岡市博多区那珂2丁目56、64-2、57-1、57-2における共同住宅建設に先立ち、福岡市教育委員会が平成28年9月26日から平成28年11月8日にかけて発掘調査を実施した那珂遺跡群第167次発掘調査の報告である。
- 発掘調査は上記の主体により行われ、調査は福岡市埋蔵文化財課 山本晃平が担当した。
- 報告する調査の基本情報は下表のとおりである。
- 本書に掲載した遺構の実測図作成は、山本が行った。
- 本書に掲載した遺物の実測図作成は山本が行った。
- 本書に掲載した遺構及び遺物の写真撮影は山本が行った。
- 本書に掲載した挿図の製図は山本が行った。
- 本書で用いた方位は磁北である。
- 本書で用いた座標は世界測地系による。
- 調査で検出した遺構については、通し番号を付している。
- 本書に関わる記録・遺物等の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵保管され、活用されていく予定である。
- 本書の執筆・編集は山本が行った。

那珂遺跡群第167次発掘調査基本情報

遺跡名	那珂遺跡群	調査次数	第167次	調査略号	NAK-167
調査番号	1629	分布地図図幅名	板付24	遺跡登録番号	0085
申請面積	612.77m ²	調査対象面積	250m ²	調査面積	170m ²
調査期間	平成28年9月26日～平成28年11月8日			事前審査番号	28-2-179
調査地	福岡市博多区那珂2丁目56、64-2、57-1、57-2				

本文目次

第1章 はじめに	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の組織	1
3 遺跡の位置と環境	2
4 第167次調査地点の周辺調査	7
5 那珂遺跡群における中世の大溝	7
第2章 調査の記録	9
1 調査の概要	9
2 遺構と遺物	9
1) 掘立柱建物	9
2) 坑穴住居	10
3) 溝	10
4) その他の出土土器	13
第3章 小結	14

挿図目次

第1図 那珂遺跡群周辺遺跡分布図 (1/25000)	3
第2図 那珂遺跡群調査地点位置図 (1/7500)	4
第3図 那珂遺跡群第167次調査地点周辺遺構配置図 (1/500)	5
第4図 那珂遺跡群第167次調査地点全体図 (1/100)	6
第5図 調査区南壁土層断面図 (1/60)	9
第6図 掘立柱建物01 (1/80) と出土土器 (1/3)	11
第7図 坑穴住居021・058 (1/60) と出土土器 (1/3)	12
第8図 溝059 (1/80)	13
第9図 溝059 出土遺物 (1/3)	13
第10図 その他の出土遺物 (1/3)	13
第11図 那珂遺跡群大溝配置図 (1/2500)	15

図版目次

- 図版 1 (1) 全景写真（南から）
- 図版 2 (2) 調査区南壁土層断面（北から）
 - (3) 掘立柱建物 01（東から）
 - (4) 掘立柱建物 01 P2 断面（東から）
- 図版 3 (5) 掘立柱建物 01 P3 断面（東から）
 - (6) 掘立柱建物 01 P4 断面（東から）
 - (7) 掘立柱建物 01 P8 断面（東から）
- 図版 4 (8) 壴穴住居 021・058（南から）
 - (9) 壴穴住居 021 白色粘土（東から）
 - (10) 壴穴住居 058 白色粘土（東から）
- 図版 5 (11) 溝 059（東から）
 - (12) 溝 059 土層断面（東から）
- 図版 6 (13) 掘立柱建物 01 出土遺物
 - (14) 壴穴住居 021 出土遺物
 - (15) 壴穴住居 021 (069) 出土遺物
- 図版 7 (16) 溝 059 出土遺物
 - (17) 064 出土遺物

第1章 はじめに

1 調査に至る経緯

平成 28 年 6 月 6 日付に福岡市博多区那珂 2 丁目 56 他の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の有無についての照会文書が福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課に提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地である那珂遺跡群に所在し、周辺の確認調査・発掘調査において遺跡の存在が確認されている。そのため、当該地にも埋蔵文化財が存在する可能性が高いと判断し、平成 28 年 6 月 21 日に確認調査を行った。その結果、地表面から 25cm 下で地山である鳥栖ロームに達し、遺構を確認した。これらから埋蔵文化財課では、遺構の保全に関して申請者と協議を行った。

その結果、共同住宅建設において埋蔵文化財への影響を回避できないことから、記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。そして平成 28 年 9 月 21 日付で事業者である個人を委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、同年 9 月 26 日から発掘調査を行い、平成 28 年 11 月 8 日に終了した。

2 調査の組織

調査委託：個人

調査主体：福岡市教育委員会 （発掘調査：平成 28 年度・整理報告：平成 29 年度）

調査総括：経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課

課長 常松幹雄（28・29 年度）

調査第 1 係長 吉武学（28 年度）

調査第 2 係長 大塚紀宜（29 年度）

調査庶務：同課

管理係長 大塚紀宜（28 年度）

管理係 入江よう子（28 年度）

文化財保護課管理調整係 松尾智仁（29 年度）

事前審査：同課

事前審査係長 佐藤一郎（28 年度）

本田浩二郎（29 年度）

主任文化財主事 池田祐司（28・29 年度）

文化財主事 大森真衣子（28 年度）

中尾祐太（29 年度）

調査担当：同課

文化財主事 山本晃平（28・29 年度）

発掘作業：秋根睦美、今村良輔、岡村まさか、島津明男、堤篤史、時吉ひとみ、富岡洋子、

中村順次、花田淑子、深溝嘉江、安武陽子

整理作業：豊田忠一、堀江一美、八木一成

3 遺跡の位置と環境（第1図）

玄海灘に北面し、背後に背振・三郡山系をひかえる福岡市には、これら山系から派生する丘陵によって画される平野が展開しており、東側から柏屋、福岡、早良、今宿平野と呼称される。今回報告する那珂遺跡群は、これらのうち福岡平野に位置している。

那珂遺跡群は福岡平野を流れる御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地、中位段丘上の北側に位置する。那珂遺跡群が位置する台地はその南東の春日丘陵から標高を北に下げながら延びる低丘陵上に立地している。北側には比恵遺跡群が、南側に五十川遺跡が接しており、同じ段丘上に立地している。特に比恵遺跡群は、那珂遺跡群との間に深い谷上地形があるが、遺構の分布や遺構変遷の様相から、弥生時代から古代においては同一の遺跡群であると考えられており、「比恵・那珂遺跡群」と総称されている。

これらのさらに周囲の台地上には麦野遺跡、井尻B遺跡、諸岡A・B遺跡、高畠遺跡、板付遺跡などがあり、弥生時代前期から断続的に集落や墓地が展開する状況を示している。また那珂遺跡群の南西側の丘陵には野間A・B遺跡、大橋A・B・C・D遺跡など小規模な遺跡が多く存在している。

那珂遺跡群は旧石器時代から中世にかけての複合遺跡である。特に弥生時代から古代にかけては濃密な遺構分布を示している。比恵・那珂遺跡群は1938（昭和13）年の区画整理時に発見された環濠集落の調査以来、これまでに比恵遺跡群で150次、那珂遺跡群で171次を数える調査が行われてきた。これまで那珂遺跡群で行われた調査の結果から各時代を概略する。

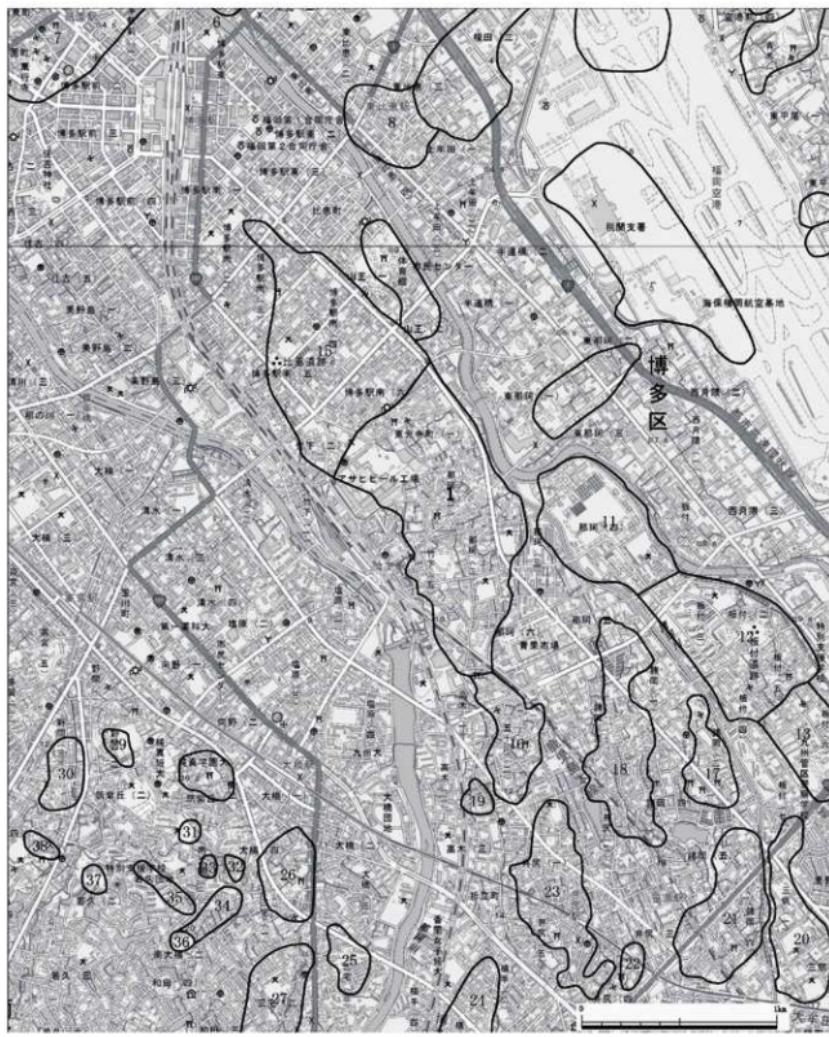
旧石器時代は、その時期の遺物であるナイフ形石器や彫器、剥片などが丘陵の南東縁（第38・第41次調査地点）で出土しているが、散逸的な分布を示すに過ぎない。

次の縄文時代も早期から晩期前半までは、石鏃や石匙、土器片などが断片的に出土しているが、明確に遺構に伴って出土したものはなく、その有り様は前時代と大差がない。この傾向は、比恵遺跡群においても同様である。

弥生時代になると、その様相は一変する。台地の縁辺部で堅穴住居や貯蔵穴群などの遺構が広がり、閉析谷に面した緩斜面には土器や石器、木器を伴う包含層が形成される。集落域は尾根上へと次第に拡大していく。台地の南西縁（第37次調査地点）では夜臼期から前期前半の二重環濠集落が営まれ、台地中央部の尾根上（第67次調査地点）でも貯蔵穴を伴った環濠集落が営まれている。また北西縁や東縁部にも貯蔵穴群が広がっている。前期後半から中期になると集落域は、縁辺部から尾根上へと次第に拡大していく。

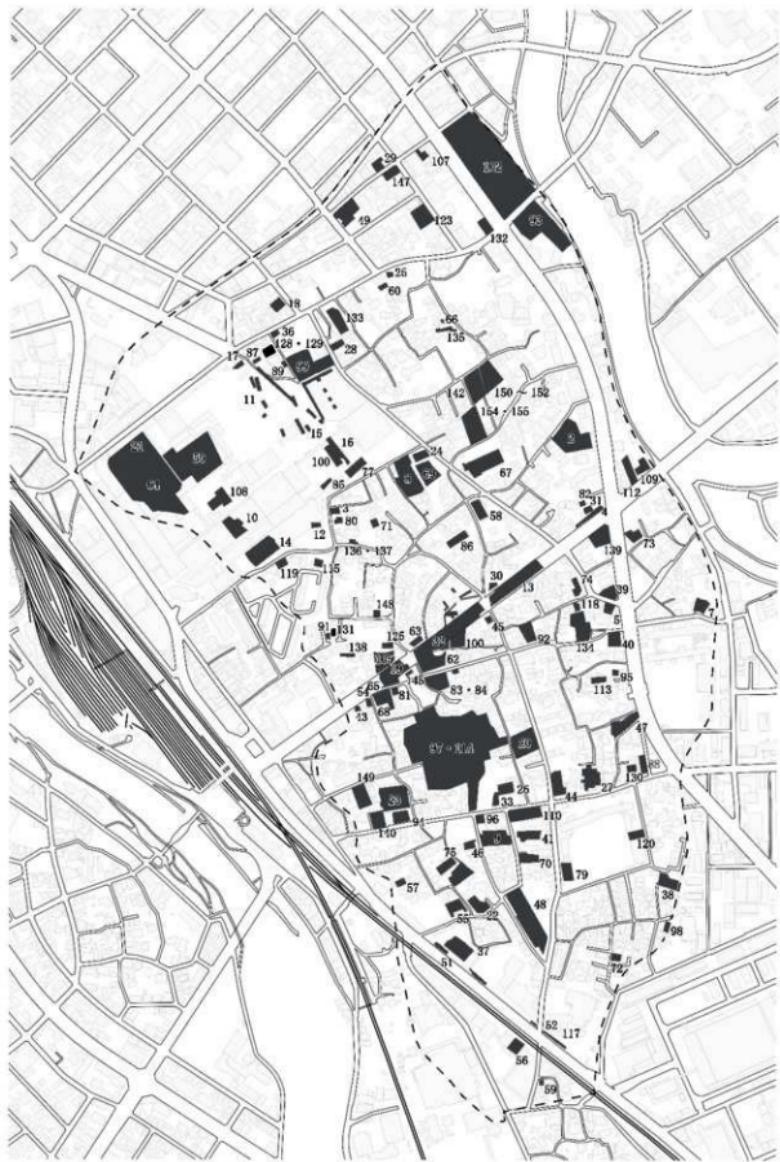
弥生時代中期後半から後期には、台地上の全域が集落化する傾向にある。その中には銅劍や銅矛など鋳型の中子など青銅器の生産を示唆する遺物も出土しており、青銅製品の生産が関わる工房群が台地の尾根上に存在することが窺われる。また集落域周辺には、墳丘墓をはじめとする幾種墓群も造営され、遺構の性格も拡大・多様化する。

古墳時代になると、台地中央部に福岡平野で最古の前方後円墳である全長85mの那珂八幡古墳が造営され、主体部の木棺内に三角縁神獣鏡や玉類が副葬されていた。これに統いて6世紀後半には、那珂八幡古墳周辺の台地上に東光寺剣塚古墳と剣塚古墳の2基の前方後円墳のほか前方後方墳も造営される。このうち東光寺剣塚古墳は筑前地域で最大級の前方後円墳で、全長140mで三重の周溝をもつ。この時期の集落は那珂から比恵の台地上に広く展開し、規格性の高い3本柱の櫛列に囲まれた大型建物群も台地上各所に出現する。特に記紀に記された「那津宮家」とされる大型建物群が比恵遺跡群北西部（第8次・第72次・第109次調査地点）にあり、中央部（第7・第13次調査地点）にも南に巨大な門を配した3柱の櫛列群や大型建物群が広がっており、全体として「那津宮家」を形成していたと考えられ、平野内の拠点的な集落として一翼を担ってい

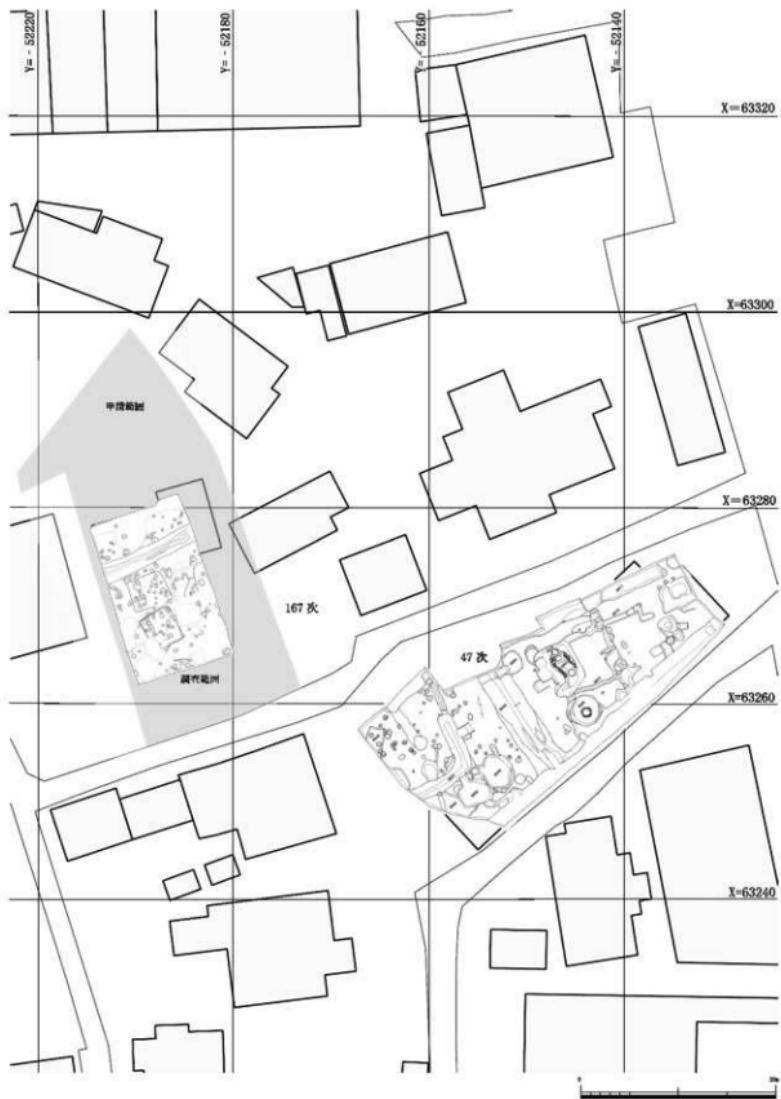


1. 那珂遺跡群
2. 上白井遺跡
3. 席田青木遺跡
4. 久保園遺跡
5. 席田大谷遺跡
6. 吉塚遺跡
7. 博多遺跡群
8. 東比恵三丁目遺跡
9. 鶴居遺跡
10. 東那珂遺跡
11. 那珂若林遺跡
12. 板付遺跡
13. 高畠遺跡
14. 山王遺跡
15. 比恵遺跡群
16. 五十川遺跡群
17. 諸岡B遺跡
18. 諸岡A遺跡
19. 井尻A遺跡
20. 三筑遺跡
21. 笹原遺跡
22. 井尻C遺跡
23. 井尻B遺跡
24. 横手遺跡
25. 三宅C遺跡
26. 大橋B遺跡
27. 三宅B遺跡
28. 野間B遺跡
29. 野間A遺跡
30. 中村町遺跡
31. 大橋A遺跡
32. 大橋D遺跡
33. 大橋C遺跡
34. 三宅A遺跡
35. 大橋B遺跡
36. 和田藏池遺跡
37. 若久B遺跡
38. 若久A遺跡

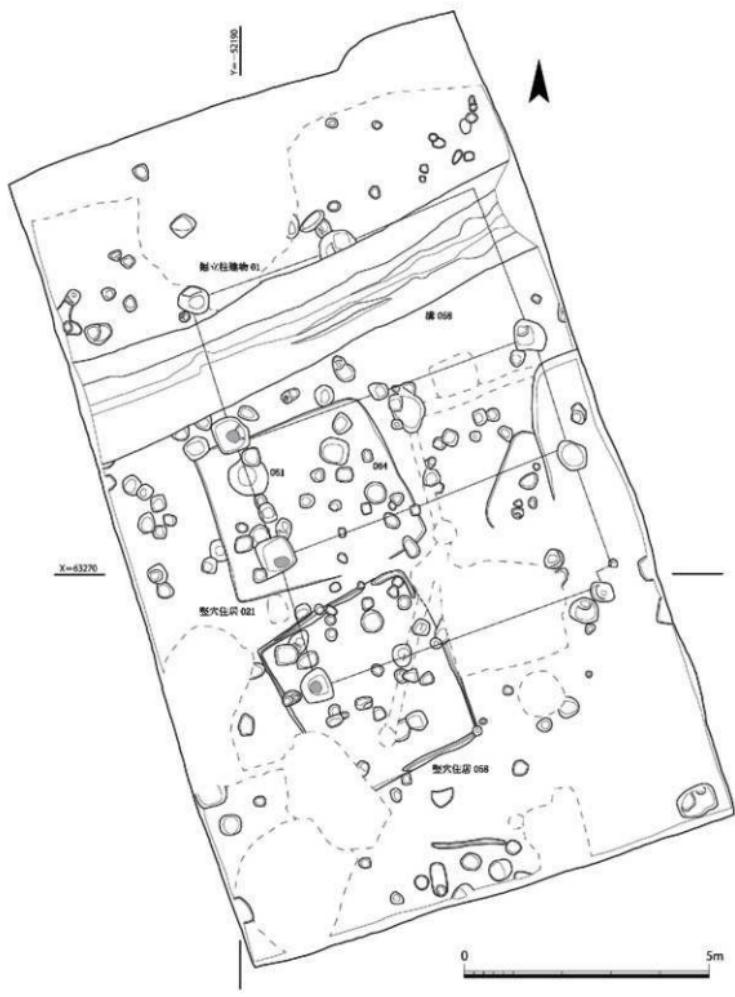
第1図 那珂遺跡群遺跡周辺分布図 (1/25000)



第2図 那珂遺跡群調査地点位置図 (1/7500)



第3図 那珂遺跡群第167次調査地点周辺遺構配置図（1/500）



第4図 那珂遺跡群第167次調査全体図（1/100）

たことが想起される。

那珂遺跡群では「初期瓦」とされる特異な瓦類を含む6世紀末から7世紀末の古代瓦が複数地点で出土している。第22次調査地点では九州最古の瓦の一つとされる「神ノ前タイプ」の瓦が出土し、第23次調査地点では桶巻技法など通有な製作技術を導入した「月の浦タイプ」の瓦が多く出土している。また第23次調査地点で初期瓦が出土した溝は、第114次調査の成果から、大型建物を伴う一辺90mの方形区画溝であることが明らかになっている。ただ第114次調査地点の方形区画溝では初期瓦が少數しか出土しておらず、第23次調査地点の出土量から考えて、第23次調査地点に近い方形区画溝内の西側に瓦葺きの建物が存在していたと考えられる。さらに那珂遺跡群南端の第37・第51・第56・第117次調査地点においても7世紀中頃～末の大型建物ないし二本柱構列が検出されている。

中世後半期の室町時代から戦国時代にかけて、各所で堀状の大きな溝が掘り巡らされている。これは大内氏や大友氏などの家臣団の知行地との関連が指摘される。このような状況は南接する五十川遺跡などでも見受けられる。

4 第167次調査地点の周辺調査（第2図、第3図）

第167次調査地点は、那珂遺跡群でも東側に位置している。周辺の調査事例はすぐ南側に第47次調査地点が、北側に第95次調査地点と第113次調査地点が存在している。ここでは周辺の既調査地点の成果を概観していく。

まず第167次調査地点のすぐ南側に位置する第47次調査地点では、16世紀代の地下式土壙3基とそれと重複する形で溝が検出された。地下式土壙と溝との切りあい関係は不明である。ただ那珂遺跡群第28次調査地点では15世紀後半から16世紀前半にかけての溝が埋没した後に築造された地下式土壙が検出されており、また諸岡遺跡第10次調査でも溝が埋没した後に地下式土壙を築造していることからも、溝が埋没した後に地下式土壙が築造された可能性が高い。地下式土壙SK03からは銅製釣鐘形分銅、金銅製鍊形、便などが出土しており、地下式土壙からの出土遺物としては異例である。地下式土壙と重複するSD01とSD05は、前者が幅1.5m、深さ1.0mで断面逆台形を呈す溝で、L字に屈曲する。後者は幅3.0m、深さ1.2mの断面V字形を呈す溝である。SD01とSD05に挟まれた幅5mの空間には地下式土壙以外の遺構は確認されず、また溝の土層に地山のロームがブロック状に見られたことから、土星がめぐらされていたと考えられる。

第95次調査地点では、古墳時代の掘立柱建物、中世以降の溝、土壙、ピットを検出している。ただ調査範囲が狭いため、掘立柱建物は一部のみでおそらく2×2間の建物であると思われる。

第113次調査地点では、台地の落ち際ラインと埋没谷を検出している。埋没谷から落ち際を中心に戸塚時代前期までの土器片が多量に出土した。そのため谷部は戸塚時代後期までには埋没し、戸塚時代後期、奈良時代、中世の集落が展開していたものと思われる。また他にも古墳時代以降の掘立柱建物、中世の溝、井戸などが検出されている。中でもSD01は幅3.7m、深さ1.4mをはかる断面漏斗状の溝である。形状から居館を囲む方形区画溝の可能性が高い。白磁片や奈良時代の須恵器などが出土している。掘削時期は12世紀以降が考えられるが、形状と規模から第47次調査地点で検出された溝と同様に中世後半期まで下る可能性もある。

5 那珂遺跡群における中世の大溝

上述した通り、第47次調査、第113次調査地点では居館を囲む方形区画溝が検出されている。これらは中世後半期に大内氏や大友氏の家臣団との関わりが考えられる。今回報告の第167次調査地点でも、方形区画溝を考えられる大溝（溝058）を検出している。那珂遺跡群には他にも中世

の大溝を検出しており、それらを概観し、溝 058 を含めた那珂遺跡群の方形区画溝を考える一助としたい（詳しい考察は第 3 章に譲る）。

第 7 次調査 SD01 最大幅 1.80m、深さ 1.3 ~ 1.7m をはかる。断面は逆台形を呈する。緩やかな弧を描いて南から北へと続いている。

第 8 次調査 中世の溝は 2 条検出している。SD02 は幅 2.4 ~ 2.7m、深さ 1.0 ~ 1.2m をはかる。断面は V 字に近い逆台形を呈する。SD10 は幅 2.0m、深さ 30cm 前後をはかる。U 字形の浅い溝である。

第 19 次調査 溝 2 幅 4m 前後、深さ 1.1m ほどをはかる。断面では、上半部の傾斜が緩く、下半部で急になる。底面は皿状の断面である。

第 20 次調査 中世の溝は 2 条検出している。SD09 は断面 V 字形の溝で、深さ 0.8cm 前後である。北側で一旦浅くなつて、再度深くなる。出土遺物から 15 世紀代か。SD10 は調査区東側で検出した細い溝で、幅 0.6m、深さ 20cm 前後をはかる。北側に向かつてやや深くなる。出土遺物はやや古めを示しているが、切りあい関係から 15 ~ 16 世紀ではないだろうか。

第 28 次調査 SD01 北東から南西方向に傾斜し、ほぼ南北方向へ矩形に屈曲する溝である。幅 1.1 ~ 1.7m、深さ 50 ~ 70cm をはかる。断面は逆台形を呈する。地下式土壙と重複している。15 世紀後半から 16 世紀前半か。

第 32 次調査 SD1001 幅 400cm、深さ 180cm。断面 V 字形をなす。李朝の白磁や石臼などが出土している。

第 40 次調査 SD28 調査区南東隅で中世の大溝を検出している。調査区内の確認規模で長さ 20m、幅 2.9m ~ 3.1m、深さ 1.3 ~ 1.4m をはかる。断面は逆台形を呈す。溝底のレベルとしては南側が高く北側が低くなっている。溝底は凹凸が激しいが、堆積層から砂層を含まず、恒常的な水の流れはなかったと思われる。明代の基督教底の青花磁器などから 16 世紀代に埋没したと考えられる。

第 44 次調査 SD01 調査区西側で主軸方向をほぼ真北にとる溝が検出されている。幅 1.5 ~ 2.0m、深さ 0.5 ~ 0.6m をはかる。断面は逆台形を呈する。底面は北側から南側へ低くなっている。堆積層には砂層は見られず、水が流れた形跡は認められない。

第 127 次調査 SD02 調査区東端で溝の西肩のみ検出している。断面は箱形をなすか。底面は平坦である。

第 134 次調査 SD10・11 南北方向に走る並行した溝である。調査区内では切りあいはなかつたが、調査区外では切りあつてある可能性がある。SD10 は幅 0.8 ~ 1m。溝底面の幅は 0.3 ~ 0.4m ほどである。SD11 は幅 1.5 ~ 2m、深さ 1m。溝底面の幅は 0.3 ~ 0.6m ほどである。

以上、既存の調査成果から方形区画溝と思われるものを抽出した。これらの特徴としては、断面が V 字ないし逆台形を呈しており、また堆積層の観察から砂層を含んでおらず、水が流れた形跡がないということである。おそらく空濠として使用されたのであろう。さらに第 28 次調査と第 47 次調査で大溝と重複する形で地下式土壙が伴つて検出されている。地下式土壙の性格は依然として不明なところがあるが、大溝と同様、防衛的機能をもつのではないだろうか。

第2章 調査の記録

1 調査の概要

今回報告する那珂遺跡群第167次調査は、福岡市博多区那珂2丁目に所在する。調査地点は那珂遺跡群の中央部よりやや南東側に位置する。

遺構検出は重機で遺構面である鳥栖ローム上面まで剥ぎ取って実施した。遺構面は調査区中央部がやや高く、北側及び南側に向かって傾斜している。遺構面は表土から約40~50cm下である。調査区北側と南側に擾乱があり、全体として遺構の残りは良くない。検出遺構は掘立柱建物1棟、竪穴住居2軒、溝1条、ほか多数のピットを確認した。

発掘調査は平成28年9月26日に着手した。まず重機で遺構面上面まで剥ぎ取りを行い、並行して発掘器材の搬入などを行った。試掘調査の結果から申請地の北側は一段と低くなっている、擾乱によって遺構・遺物が見られないことから、遺構が確認できた範囲を調査区に設定した。

遺構が確認できなった申請地北側を廃土置き場に設定し、調査区南側から重機による表土剥ぎを行った。南側は大きな擾乱等があり、遺構の残りは良くなかったが、調査区中央部に竪穴住居が2軒確認できた。さらに調査区北側では東西に延びる溝が確認した。遺構検出後は溝、竪穴住居を中心掘削、記録を進め、平成28年11月8日にすべての調査を完了した。出土遺物はパンケース7箱分である。

2 遺構と遺物

以下、遺構種別ごとに調査遺構及び出土遺物について報告する。

1) 掘立柱建物

掘立柱建物O1(第6図、図版2・3)

調査区中央部で確認された2間×3間の建物である。主軸方位はN-20°-W。溝059と擾乱に切られている。梁行は約450cmで柱間は約230cmをはかる。桁行は約620cmで柱間が約200cmをはかる。柱穴の平面形は円形～隅丸方形で、径約40~50cmをはかる。P2、P3、P4、P8で柱痕跡を確認し、その径は約20cmである。



第5図 調査区南壁土層断面図 (1/60)

出土遺物（第6図、図版6）

1は越州窯系青磁碗。P2から出土した。口径は15.1cm、残存高は3.7cmをはかる。口縁端部がやや内湾している。釉は濃緑色を呈し、胎土は暗灰色である。焼成は良好。他にも各柱穴から少量の土器が出土しているが、いずれも細片の土師器片、須恵器片、陶磁器片である。

2) 壺穴住居

壺穴住居 021（第7図、図版4）

調査区中央部で確認された方形プランの壺穴住居である。壺穴住居 058 の北側に位置し、掘立柱建物 01 に切られている。遺存状況は良くない。南北長3.2m、東西長3.8mをはかり、東西方向にやや長い長方形を呈するものと考えられる。壁面は約5cm程度が遺存する。壁溝は確認されなかった。また床面ではピットを確認できたが主柱穴は不明である。北側中央部に東西約1m、南北約90cmの範囲で焼土を確認した。厚さは約5cmである。また南側中央にて、白色粘土と焼土を確認した。白色粘土は竈を構築していたもので、住居を遺棄する際に竈を破壊していくものと考えられる。

出土遺物（第7図、図版6）

2は土師器の壺の口縁部。法量は復元できなかった。外面調整は磨耗が激しく不明で、内面はナデ調整が行われている。胎土はやや密で、1mm程の砂粒を含んでいる。焼成は良好。色調は淡い褐色～黄褐色を呈している。3は土師器の小型丸底壺。061から出土した。口径8.9cm、器高9.7cmをはかる。外面底部付近では指圧痕跡が見られる。全体の調整はナデ調整が行われている。

他にも土師器片を主体として、須恵器片、弥生土器片などが出土しているが、いずれも小片であり図化することができなかった。

壺穴住居 058（第7図、図版4）

調査区中央部で確認された方形プランの壺穴住居である。壺穴住居 021 の南側に位置し、掘立柱建物 01 に切られている。南側の一部が搅乱によって切られている。遺存状況は良くない。南北長3.8m、東西長3.5mをはかる。壁面は5cm程度遺存する。また幅10～15cm、床面からの深さ約3～4cmの壁溝が巡る。東側と南側の一部で壁溝が途切れ確認できなかった部分もある。主柱穴は4本と考えられるが、一部が搅乱によって破壊され確認できなかった。住居中央部付近で長さ1m、幅30cmの範囲で白色粘土を確認した。厚さは10cmである。後世のピットに切られている。これも壺穴住居 021 と同様、住居を遺棄する際に竈を破壊した結果であると考えられる。

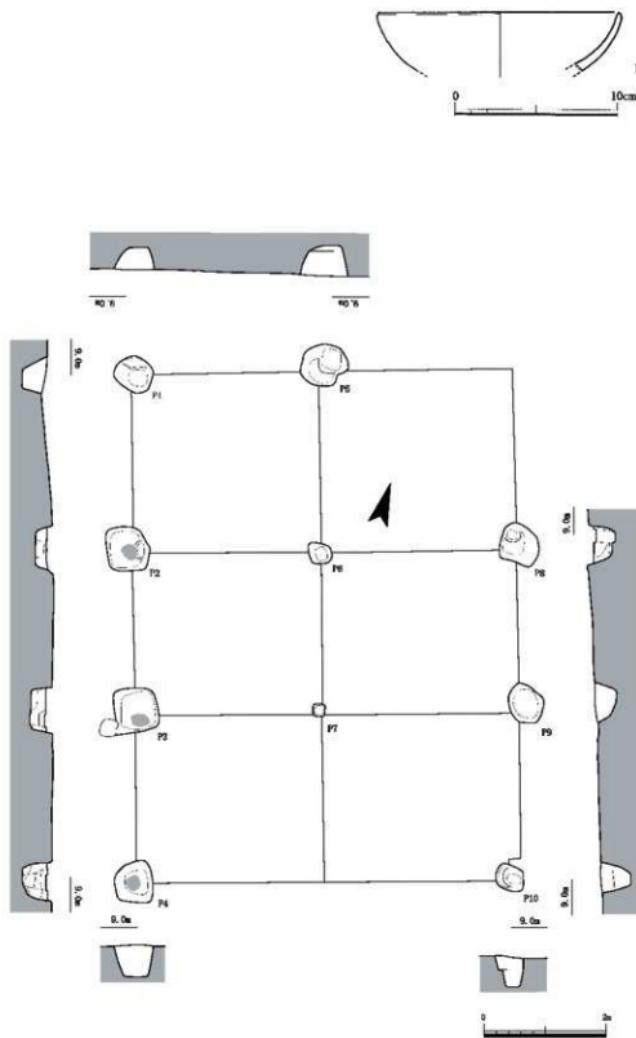
出土土器

弥生土器片、土師器片、須恵器片が出土したが、いずれも細片で図化できなかった。

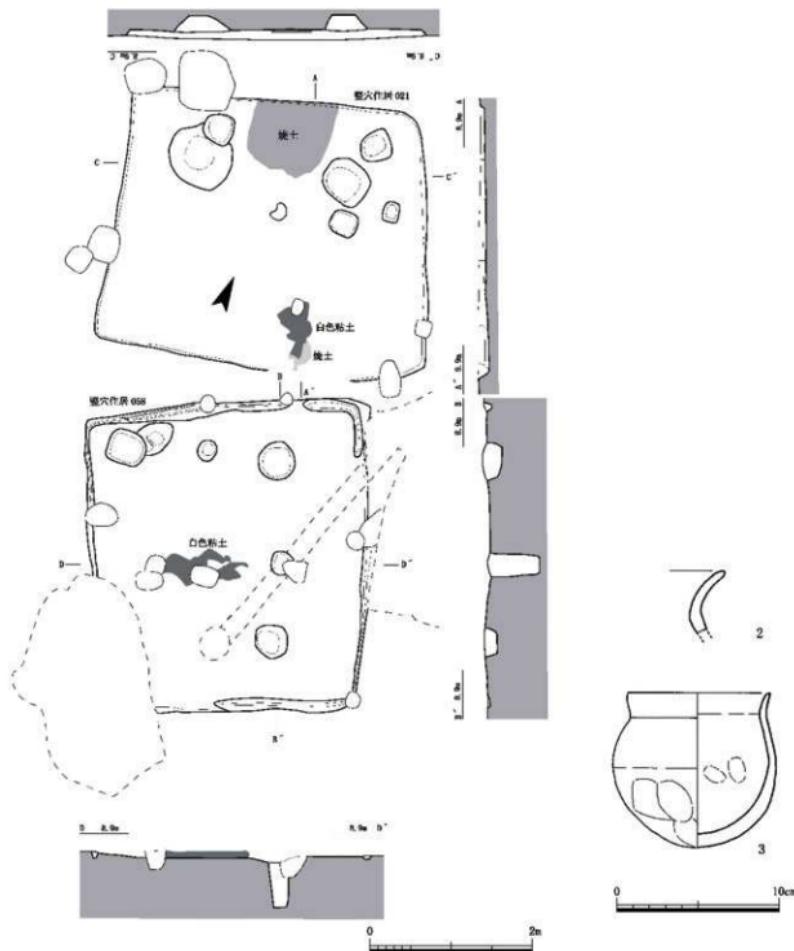
3) 溝

溝 059（第8図、図版5）

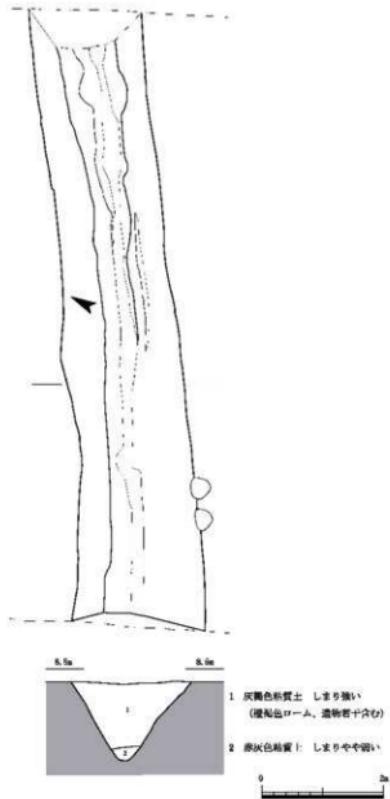
調査区北側に確認された東西に延びる大溝である。東西ともに調査区外に延びている。本調査地点で確認された全長は約9.8mで幅1.8mをはかる。深さは約1.2mで断面がV字形を呈する。覆土は全体的に灰褐色粘質土であり、しまりが強い。一部底に赤灰色粘質土（しまりが弱い）が堆積していた。堆積層に砂層は見られず、水が流れた形跡は認められない。



第6図 挖立柱建物01 (1/80) と出土土器 (1/3)



第7図 壺穴住居 021・058 (1/60) と出土土器 (1/3)



第8図 溝059 (1/80)

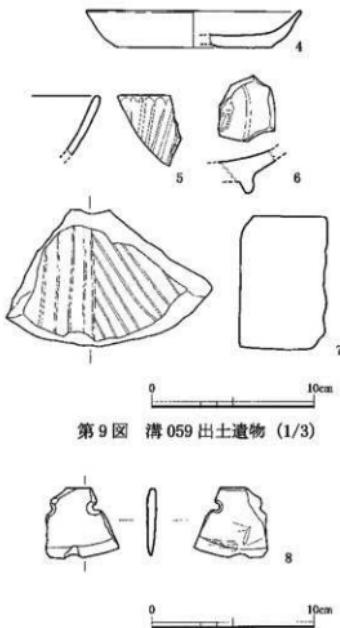
出土遺物（第9図、図版7）

4は土師器の坏身。口径 13.3cm、器高 2.3cm、底径 9.7cm をはかる。底部調整はヘラ切りか。磨耗が激しい。体部・口縁部の調整はナデである。焼成は良好。胎土は密で 1mm 程の砂粒を含んでいる。色調は褐色を呈している。5 は龍泉窯系青磁碗 II類。法量は復元できなかった。内面は無文で外面に蓮花文が施されている。釉は深緑色を呈し、胎土は乳白色である。焼成は良好。6 は龍泉窯系青磁碗。高台と底部の一部のみ残存しており、法量は不明である。底部内面の見込みに文様が施されている。7 は石臼。復元径 18.8cm、残存厚さ 4.6～5.4cm をはかる。目は 8 分画、8 溝式。色調は茶褐色を呈する。摩歯がほとんどすりへっていないことから、未使用品の可能性がある。

その他、須恵器片、土師器片、陶磁器片などの小片が出土している。

4) その他の出土遺物（第10図、図版7）

8 は石包丁。064 から出土した。長さは不明。幅 4.4cm、厚さ 6mm である。



第9図 溝059出土遺物 (1/3)

第10図 その他の出土遺物 (1/3)

第3章 小結

今回の調査では、掘立柱建物 1 棟、竪穴住居 2 軒、溝 1 条を検出した。ここではそれら遺構の時期や性格について周辺の調査事例も交えながら、若干考察を行いまとめとしたい。

検出された遺構はそれぞれ切りあっており、古いものから竪穴住居 021・058→掘立柱建物 01→溝 059 と遺構が変遷している。

第167次調査地点で最も古い遺構は竪穴住居 021・058 である。ともに平面プランが方形である。また白色粘土と焼土が検出されている。第 167 次調査地点の西側で調査された第 114 次調査地点でも竪に伴って床面に竪が破壊された灰白色粘土が散らばって検出されている。そのため、竪穴住居 021・058 にも竪があったものと考えられるが、明確な痕跡が見られなかった。ただ竪穴住居 021 の北側で焼土が見つかっていることから、そこが竪となるか。遺構の時期は出土遺物の多くが破片なため、明確な時期決定は難しいが、平面プランと土師器の小型丸底壺の出土から古墳時代後期と推定したい。

次に掘立柱建物 01 が造られる。掘立柱建物 01 は 2×3 間の建物である。遺構の時期は古代と推定したい。第 113 次調査地点で 2×2 間の縦柱建物 ? が検出されているが、第 167 次調査地点周辺で明確な建物跡はほとんど見つかっておらず、周辺の調査事例の増加を待って改めて検討したい。

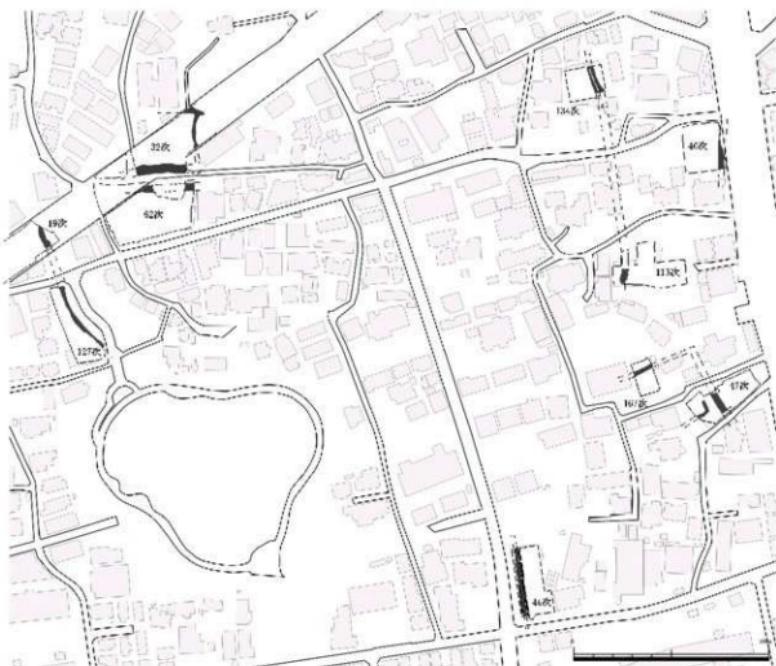
最後に調査区を東西に延びる溝 059 がつくられる。時期は遺物から考えると 13 世紀代か。ただ古代の須恵器片や土師器片などがまとまって出土しているが、切り合い関係から掘立柱建物 01 より新しいことは明らかにため、古代の土器類は混じりこみであろう。また石臼片が合わせて出土している。遺構に伴って石臼が検出されるようになるのは 14 世紀後半以降であること、また第 32 次調査地点で 16 世紀代の大溝から石臼出土していることからも溝 059 の時期は中世と推定したい。

那珂遺跡群では 15 ~ 16 世紀の居館跡を囲む方形区画溝が各調査地点で見つかっている（第 1 章 5 参照）。今回見つかった溝 059 もその規模、形状から方形区画溝であると考えられる。そこでこれまで那珂遺跡群で調査された 15 ~ 16 世紀の大溝をまとめ、簡単な考察を行いたい（第 11 図）。

今回の調査で検出された溝 059 は、第 47 次調査地点の SD05 と繋がるのではないかと考える。おそらく未調査区である東側のいずれかで折れ曲がり一連の溝となると考える。また第 134 次調査地点と第 113 次調査地点の溝も一連のものと考える。そしてそれらと並行する第 40 次調査地点の溝もまた同一の区画溝として推察される。第 32 次調査地点では大溝とそれに繋がるやや細い溝がコの字状に確認されており、第 62 次調査地点と合わせて一つの区画溝として理解できよう。第 19 次調査地点と第 127 次調査地点は一連の溝であるが、第 32 次調査地点との関係については周辺の調査事例を精査し改めて検討したい。

以上のように、本調査地点周辺の大溝は溝の方向や配置から大きく 4 つに分かることができよう。^① 第 167 次・^② 第 47 次調査地点（第 44 次調査地点）、^③ 第 40 次・^④ 第 113 次・^⑤ 第 134 次調査地点、^⑥ 第 32 次・^⑦ 第 62 次調査地点、^⑧ 第 19 次・^⑨ 第 127 次調査地点の 4 つである。中世後半に那珂遺跡群周辺では大友氏や大内氏家臣団の知行地になっており、これらの大溝は家臣たちの屋敷地を囲む濠として機能していたと指摘されている。ただ第 127 次調査地点の SD02 のように方形を指向する溝でないものも存在する。また第 127 次調査地点の近辺から掘立柱建物などが見つかっていない。そのためこれらの大溝は濠としての機能だけでなく、排水としての機能もはたしていたと考えられる。

このように、中世後半の那珂遺跡群の大溝をまとめるとそれであったであろう屋敷地の存在が見えてきたと思う。ただ今回は時間の都合上、那珂遺跡群の大溝をすべて網羅して検討したわけではない。今後改めて検討したい。また溝と溝のつながりが判然としないところも多い。今後調査次数を重ねれば、そのつながりも見えてくるかもしれない。今後の調査の進展を期待したい。



第11図 那珂遺跡群大溝配置図 (1/2500)

図版 1



(1) 全景写真（南から）



(2) 調査区南壁土層断面
(北から)



(3) 据立柱建物 01
(東から)



(4) 据立柱建物 01
P2 断面 (東から)

図版 3



(5) 挖立柱建物 01
P3 断面 (東から)



(6) 挖立柱建物 01
P4 断面 (東から)



(7) 挖立柱建物 01
P8 断面 (東から)



(8) 壁穴住居 021・058
(南から)



(9) 壁穴住居 021
白色粘土 (東から)



(10) 壁穴住居 058
白色粘土 (東から)

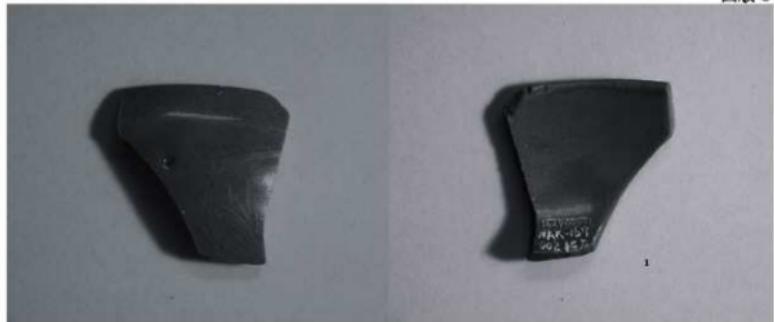
図版 5



(11) 溝 059
(東から)



(12) 溝 059 断面
(東から)



(13) 墳立柱建物 01 出土遺物



(14) 壓穴住居 021 出土遺物



(15) 壓穴住居 021 (069) 出土遺物

圖版 7



(16) 清 059 出土遺物



(17) 064 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	なか78						
書名	那珂78						
副書名	—那珂遺跡群第167次調査の報告—						
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第1337集						
編著者名	山本晃平						
編集機関	福岡市教育委員会						
所在地	〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号 TEL 092-711-4667						
発行年月日	2018年3月26日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m ²	発掘原因
なかいせきぐん 那珂遺跡群	ふくおかげんふくおかし 福岡県福岡市 はかたくなかせきぐん	40132	33° 85	130° 34' 28' 09"	~ 20160926 20161108	170	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
那珂遺跡群 第167次調査	集落	古墳時代後期 古代 中世	掘立柱建物1棟 竪穴住居2軒 溝1条	土師器、須恵器、青 磁、石臼	古墳時代後期と古代の集 落と中世の居館の区画溝		
要約	那珂遺跡群は、福岡平野を流れる御笠川と那珂川に挟まれた洪積台地の北側に位置し、本調査地点はその中でも東端に位置している。 検出遺構は、古墳時代後期の竪穴住居2軒、古代の掘立柱建物1棟、中世の溝1条、多数の柱穴・ピットが確認された。竪穴住居は方形で白色粘土と焼土が見つかった。掘立柱建物は2間×3間の建物である。溝は幅1.8m、深さ1.2mの断面V字形を有する溝であり、居館を巡る区画溝であると考えられる。						

那珂 78

—那珂遺跡群第167次調査の報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1337集

平成30年3月26日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号
(092) 711-4667

印刷 有限会社宏栄社印刷
福岡市南区清水1丁目10番5号
(092) 552-4967

